

建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

インタビュー集

“女性たちが語る建設業の未来“

—私にもできるはず—

③

建設未来京都フォーラム事務局

“パソコンの処理能力の進化に合わせ、事務仕事の無駄を省く改善”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 9年

・建設業に関わったきっかけ：

支店の事務職の方が定年を迎えられたことにより、知人から紹介された

・職種（できるだけ具体的に）：

支店事務職（給料計算・社会保険等）

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

直接、工事に関わる仕事はしてないので、これとってないが、昔取った「建設業経理事務士2級」の資格が役に立っている（経審等）ことが、ほんのささやかな貢献だと思った。

➤ 質問② 現在、一番苦勞や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

数年後、自分が退職した時、引き継ぐ業務をどうわかりやすく次の人に伝えるかを日々考えて仕事をしている。自分が受け継いだ時より、はるかにパソコンの処理能力が進化しているので、事務仕事の無駄を省くよう改善しながら合理的、且つ、正確に仕上げている形を目指して仕事をしている。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

元々、経理・総務をしてきたが、支店なのでここでは経理らしい業務がほとんどない。そういう点で最初は物足りなかったし、仕事の量も少なく、もっと仕事がしたいと日々思っていた。その中で自分のやるべき仕事に対し、常に合理性を考え、工夫しながら真面目に対処してきたことで、少しずつ仕事が増え、やりがいをもてるようになり、今日まで継続できたように自分では思う。

長く仕事を続けていくためには、常に創意工夫が必要だと思う。自分が作ったものを見る人側に立って「見易さ」「わかりやすさ」への創意工夫を続けていくことで、直接売上に結びつかない職種ではあるけれど、自分の存在価値が生まれるような気がする。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

正直、わからない。どこの世界にいても・・・努力なき人は何の進歩もない！自分のパンは自分で買う！これだけです。

※ご協力まことにありがとうございました。

“まず、若者を一人の大人として認める姿勢が大切なのは…”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 5年

・建設業に関わったきっかけ： 建設業がなければ、家や道路もないので大事な業界だと思ったのがきっかけです。とても単純な動機でしたが、文系大学出身の私に採用担当の方が親切に詳しいことを教えてくれたのも建設業で働きたくなったきっかけです。

・職種（できるだけ具体的に）：

事務職です。従業員の皆さんの出勤簿や給与計算の他、採用活動もさせていただいております。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

私が入社した年に、平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨が発生し、当社のある町でも河川が氾濫し、様々な被害がありました。その時は町中が異常な事態で、私自身もとても怖い思いをしましたが、当社の現場職員や近隣の建設会社の皆さんが、協力して災害対応に奔走する姿を見て、建設業の仕事の頼もしさを実感しました。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

採用業務の際、建設業の魅力を若い皆さんに伝えることに難しさを感じます。魅力的な面ばかりを伝えがちになって、かえって不信感を持たれる場合もあるからです。良いところだけではなく、ものづくりにおいて責任が大きい点や、苦労が多い点など、大変な面も知ってもらったうえで、建設業の仕事を選んでもらえるように、説明内容を工夫しています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

建設業の仕事は何も知らない私に直属の先輩はもちろん、会社の皆さんが優しくしてくれたからです。もちろんその優しさに応えられるよう、自分でも未熟だった点を改善しました。長く続けていくためには、（建設業に限りませんが）後輩を育てようという先輩方の心意気と、先輩に色々教わって頑張ろうという若者の心意気、どちらも必要だと思います。

➤ 質問④ あと 5 年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

入職したばかりの若者はマナーで欠ける面や、建設業や仕事に対して知識がないところもありますが、一人の大人として認める姿勢が大切なのかなと思います。面談を設けて悩みを共有したり、直接の仕事には関係ない啓発セミナーなどにも参加する機会を設けることで、仕事で辛いときにも乗り越えられる柔軟さが育てていいのかなと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“第三者の人たちに「かわらばん」を作って現場周辺の施設に掲示”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 5年

・建設業に関わったきっかけ：

ものを作ることが好きだったし、両親が建設業だったから。

・職種（できるだけ具体的に）：

現場監督。現場の工程を考えて、工期内にスムーズに現場が進むように管理する。品質のよいものを作りあげられるように管理する。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

自分の指示で現場がスムーズに進んで、うまくいった時は達成感とやりがいを感じます。また、現場で職人さんたちと他愛もない話で楽しく話している時は、たくさんのいろいろな人たちと関わりを持つことかできて楽しいな、とうれしくなります。

施主さんにありがとう、と言ってもらえてやりがいを感じるのは当たり前だし、どの職業でも感じられることだと思います。

現場が完成した時や、小さな修繕で直してあげた時など、大きなことから小さなことまでしてあげられて、ありがとうと言ってもらえるのがうれしいです。

➤ 質問② 現在、一番苦勞や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

苦勞していることは上司・会社との付き合い方。会社にいるより現場にいるほうが楽しいです。めんどくさい大人の見栄にふりまわされるのが一番嫌です。

工夫していることは現場の状況を第三者の人たちに知ってもらえるように「かわらばん」を作って周辺の施設に掲示してもらっています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

やりたいことをしているし、この仕事以外にやりたいと思わないから。完全にこの仕事の魅力がわからなくなるとかぎり辞めません。長く仕事を続けていくためには、やりたいと思ってこの仕事に就かないとダメだと思います。いくらお給料が良くても、嫌なら辞めます。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

建設業をやりたい!!と、どれだけ思わせることができるか、だと思います。やりたくてやっている人なら、簡単にやめないと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“先輩男性は同性を叱責するより、女性を叱るほうがストレス大?!”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 2年半

・建設業に関わったきっかけ：

就職

・職種（できるだけ具体的に）：

施工管理

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

一般的に言われるような構造物の完成時の達成感ももちろん大きい。狭かった道路を広くした後に一般車両やバイクが駆け抜けていくのを見るのはそれまでの苦勞が報われた思いがする。

その他、弊社では大雨や地震の時などに担当路線をパトロールする。もし土砂崩れなどが起きていたらすぐに連絡・復旧作業をしてみせる、それができる仲間と共にいるという感覚はとても心強い。緊張や不安ももちろんあるが、就職前に感じていた建設業の緊急時即応性の頼もしさを自分も担えることには大きな喜びを感じている。

➤ 質問② 現在、一番苦勞や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

施工管理という立場上、現場と発注者との橋渡しとしての役割が生じる。この際、双方の感覚の差を感じることもある。例えば、現場からすれば電柱や水道など支障物件が発注前に片付いておらず工事開始が大幅に遅れることは納得しがたい。土台無茶な設計の工事を受注後に一つひとつ説明して変更してもらわなければならないことも大変煩わしい。当方の仕事場は豪雪地帯であるが、150cm/日の降雪に加え供用中の道路からロータリーが集めた雪を吹き飛ばしてくるような道路下の施工箇所(反対側の道路下は民地)であっても、発注者は工事中止や設計変更になかなか首肯してくれない。

これらに対し、受注者としては事前に予測できる範囲で「支障物件が残っている場合は中止」「埋設物はないことを相互に確認した」などの確認文書を交わす、図面や写真を重ね合わせ機械や構造物が入らないと証明する程度しか身を守る手だてがない。発注者には是非、現場の苦勞を理解し、制度と現実のミスフィットを正していただきたい。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

難しい計算や書類整理、丁張作成の失敗、現場からの叱責に落ち込むこともあった。しかしそのたびに先輩社員に根気強く教えてもらった。工事終わりの打上げで、女性である私を叱責するのは、同性の後輩を叱るよりもストレスが大きい、それでも成長してほしい、してくれると思うから甘やかさないでちゃんと叱るのだ、と男性先輩から言われたときは、先輩を困らせないように早く成長したいと痛感した。このような先輩方の硬軟交えたご指導のおかげで落ち込みすぎず、今回は間違わない、と思うこ

とができた。

叱責を受けたときは特に、男性の先輩が女性の自分を叱ることで受けるストレスをおしても、あえて叱ってくれていること、ゆえにその言葉はより一層貴重なものであることを理解しておくことは必要だと思った。

➤ **質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？**

いわゆる6Kのうち「きつい、汚い、危険」は避けられないと感じる。きつい作業をして、汚く危険な場所を便利、きれい、安全な状態にするのが建設業だ。それを「かっこ悪い」とする個人の感性も一朝一夕には変えられない。一方、それに惹かれた私のような者もいる。「帰れない」は発注者による書類簡素化に期待するとして、一番改善してほしいものは「給料が安い」ことだ。十分な収入さえあれば仕事の後に体を癒し、身ざれいにできる。会社としても危険作業への対策へリソースが割ける。他の「K」を差し置いても、厚遇に集まる人はいるはずだ。

また、建設業界に身を置いて受けた違和感がひとつある。女性職員は男性職員と同程度の現場管理に加え「女性らしい」きれいな現場、気配りの休憩所を無言のうちに期待されることだ。しかし整理整頓をする、快適に過ごすアイデアを探す、などは女性だからするものではない。むしろ、ものぐさな私には苦手分野だ。几帳面な男性職員の周囲は片付いている。つまりこれらの適正に性別は関係ない。女性入職者を求めつつ彼女たちに家事労働や補助的な役割の「女性らしさ」イメージを投影し続けるならば、業界の居心地はよくなるらない。

※ご協力まことにありがとうございました。

“いわれなき公共事業、建設業批判を止めさせ、社会の理解が必要”

➤ プロフィール

・性別： 男性

・建設業に関わった年数： 10年

・建設業に関わったきっかけ： 祖父、父が建設会社を営んでおり、長男として会社を継ごうと考えたため。また、建設系のある大学に進み、建設関係の事を学び魅力を感じたことと、地域にとって大切な産業だと思ったため。

・職種（できるだけ具体的に）：

会社経営全般、採用関連業務、社内人材育成、現場施工管理、インフラ維持管理、等

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

自身が担当した建設現場において、それが完成し、最初にその道路を通った時、喜びを感じました。それまでの苦労が思い出され、あの場面ではこんな事があった、あそこの施工は苦労したなどと、つらかったこと、大変だったことが思い出されましたが、それもとてつよい思い出で、今でも通る度に、「自分が造った」という誇りがあります。協力会社の人とも今でもつながりがあり、そうした人の縁や、世の中に供用されている構造物を見るたびに、思いを感じる事が出来るのは、この仕事ならではの思いです。

また、採用という仕事をしている関係上、採用した社員が実際に現場に立ち、構造物（もの）を造り、活躍している場面を見られる事、またそうした社員が、この仕事にやりがいを感じてくれている事も、喜びであり、仕事のやりがいになります。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

一番苦労している事と言うか、取組んでいる事は「会社を強くすること」です。建設業なので（受注産業なので）、仕事を確保することも重要ですが、それは会社が強くなれば、必然的に解決できることだと思います。そのためには、人材面での育成・強化であったり、技術力の向上など社内的な事はもちろんですが、それ以外にも世の中（地域）に正しく建設業を理解してもらう事、「インフラ」を正しく（自身を含め）理解する事、それがもたらす（地域への）影響を発信することなど、工夫というか取組むこと（取り組めること）はたくさんあると思います。

特別な工夫はありませんが、当たり前のことを当たり前にする。正しい事を正しく理解する。伝えるべきことを伝える。これが一番難しい事であり、これの実現に向けて、出来る事から行う事が、大切だと考えています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

今まで続けて来られたのは、使命感はもちろんありますが、単純に建設業が好きだからだと思います。ものづくりを通じて、世の中の役に立てる仕事は素晴らしいと思いますし、自身の手掛けたものが、何

十年もそこに残り、使われていくのを見て行ける。また、たくさんの人と苦勞を共にしながら、一つの目標に向かってものづくりが出来る。建設業の魅力はたくさんあると思います。

これを長く続けて行くには、まず理不尽というか、いわれなき公共事業批判、建設業批判を止めさせる事だと思います。若手を含め、自分のやっている仕事を批判されることはつらい事ですし、苦勞をしながら良い仕事をして、それが世間に理解されないのは、仕事面以上につらく、大変な事なので、我々がその環境を変えてあげることが必要だと感じています。

➤ **質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？**

- ・世間に正しく業界を理解してもらい、バッシングをやめてもらう事（その努力をする事）。
- ・他産業に比べ、「ものをつくりだす」この仕事に対し、正当な対価を支払える環境をつくること。
- ・安定した業界にする事と、この業界で家庭を持ち、その地域で安心して生きていける環境を提供できるよう努力する事。
- ・他産業から学び、良いところは取り入れると同時に、建設業界の持つ良いところは、他に流されず、守り抜いていくこと。
- ・若手から見て、魅力ある産業にする事など、様々あると考えます。

※ご協力まことにありがとうございました。

“永く働くためには週休 2 日の確保と、拘束時間の緩和が必要”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 2年6か月

・建設業に関わったきっかけ：

学生の時に外作業と中作業が半々できる仕事を探していて、施工管理という仕事を知った。

・職種（できるだけ具体的に）：

資機材と人員の手配をして工程の管理を行う、工事が滞りなく安全に行われるようにする仕事。

この他に経費管理・測量・工事検査資料の作成(図面など)も行う。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

地域住民のより良い生活・安全の確保のために仕事をしていることが、仕事をしていく中での一番のモチベーションになります。

私は道路の歩道拡幅工事や砂防堰堤工事に携わりましたが、道路は歩行者の安全のために、堰堤は下流住民の安全な生活の確保のために計画されました。工事を行うことによって住民に不都合や不便が及ばないように、工事の進捗状況や大型車両の運行経路図を毎月回覧・掲示して説明性を上げたところ、「いつも有難う」「あんたの会社に作ってもらって良かった」とお言葉を頂きました。私たちが造っているものは何かという、根本的な気持ちを大切にしています。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

私は現在現場代理人として工事に携わっています。代理人として工事に関わるようになり気を付けていることは、当工事に関わる周辺住民の生活に不都合や大きな不便が及ばないようにすることです。そのために、工事の説明性を上げるように努めているのですが、発注先の監督官並びに所長職員の皆様が、工事の必要性・重要性について把握されていない実態が見受けられます。

毎月の安全パトロールでは、どうしてこんな場所に構造物をつくるのか、この掘削勾配では落石の危険があるが、どうしてこんな切り方をしたのか（当初の設計のままの掘削勾配のため、このような質問が出ること自体があり得ません）等、質問を受けます。発注者主催の見学会においては、見学者の「どうしてこの場所に砂防堰堤がつけられるのですか」という質問に皆さま応答できず、施工業者に回答を振るといった状態です。

発注元は、自分が携わっている仕事について理解が未熟であると強く感じました。この温度差が協議や設計変更において大きな障害となっています。そしてこれらは私たち施工業者の工夫でなんとか対応できることではありません。発注元の今後の成長を強く期待します。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

まだ 3 年目の新米なので、仕事を続けているという実感はありません。同様に長く続けていけるとい

う自信もありません。その上で、長く仕事を続けていくためにあったら良いなと思うことを挙げさせていただきます。

外作業と室内作業のバランスが私のこの仕事における魅力ですが、外作業では体力の低下を感じるようになりました。日々の外作業はそこまで体に応えませんが、(私の会社は第1・3・5土曜日が通常営業なのですが)6連勤1日休日のサイクルが、体と生活に大きな負担を感じさせます。

さらに、賃金の問題があります。他の専門業種の友人たちとの年収の話や生活の話をしているとよく感じるのが、低収入と長時間労働の実態です。特に労働時間(拘束時間)が長く、生活に支障が出る(家事がこなせていない)現状では、仕事を継続できるか不安を感じます。

仕事を続けていくためには、最低週休2日の確保と、拘束時間の緩和が最低限必要だと私は思います。

➤ **質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか?**

質問3と同じです。

※ご協力まことにありがとうございました。

“新しい技術を開発した人たちの代弁者としての業務にやりがい”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 22年

・建設業に関わったきっかけ：

最初の就職先が地質調査会社だった。大学の専攻は土木建設と直接関係はなかったが、京都周辺で転勤のない技術職に就きたいと大学の先生に相談したところ、先生の個人的な友人で地質学の先生を紹介され、その先生に紹介された地質調査会社に受け容れていただけた。当時、いわゆる超氷河期でほとんど選択肢はなかった。

・職種（できるだけ具体的に）：

おもに地盤を専門とする土木調査・設計→中小建設関連業者の技術支援

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

新しい技術を開発しながら自分でその説明がうまくできずにいる人たちの代弁者として申請や広報を手助けした結果、その技術があちこちで採用されるようになったことなど。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

現場の最前線でいわゆる 3K 仕事をしている作業員が安全にやりがいを持って働けて、かつ働きに見合った報酬を得て仕事を続けていける環境作りに頭を悩ませている。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

家族の理解と支え。家事を全面的に担ってくれる家族の存在。仕事を紹介してくれる人たちの存在。なかなか資格が取れず、技術者として認められなくてもあきらめず（執念深く）情報収集や人との交流を続けてきたこと。

➤ 質問④ あと 5 年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

何でも最初から完璧を求めないこと。細々とでも続けること。従来通りのやり方にとらわれすぎないこと。所属している組織外、仕事以外の人脈も大切にすること。

※ご協力まことにありがとうございました。

“育児休暇や育児制度の充実を！”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 3年

・建設業に関わったきっかけ：

工業高校に進学し土木を学びそれを生かそうと思ったから。

・職種（できるだけ具体的に）：

土木現場監督

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

着工から変わっていく状況や、大変なこともあったけど工事が完了したときの達成感を味わったとき。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

土木施工管理技士2級の資格取得のための勉強。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

現場にでるのが楽しくて、楽しませてくれる上司のおかげ。現場を操っていきたいという意欲。なりたい自分を思い描く。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

育児休暇や育児の制度。

※ご協力まことにありがとうございました。

“建設業のマイナスイメージや誤解を払拭することが必要”

➤ プロフィール

・性別：女性

・建設業に関わった年数：1年目(今年入社)

・建設業に関わったきっかけ：私は就職活動において、「ものづくりを行っている会社に勤めたい」と考えていました。業界を調べていくうちに、人々の生活を大きく支えている橋や道路などをつくっているところに魅力を感じ建設業にかかわりたいと思ったことがきっかけです。

・職種（できるだけ具体的に）：

総務部所属です。データ入力や振替伝票作成、書類作成など事務業務を行っています。

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

まだ入社したばかりで経験が浅いですが、データ入力したものがまとまって書類となり、それが実際に現場の方の役に立っていることを実感できたときに喜びを感じました。実際に現場に出て仕事することはありませんが、陰ながら少しでも役に立つことができると分かったのでやりがいを感じます。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

入社一年目で、建設業に関しての知識がないところからのスタートだったので、覚えることが多く苦労しています。なるべくわかったふりをしないよう、理解するまで教えてもらい、メモを取るように心がけています。また、あたりまえのことですが業務の意味を考えながら教わるようにしています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

慣れによる機械的な作業を防ぎ、自分の業務がどのように現場につながっているかを考え、また、そのことを実感しながら業務を行うことが必要だと思っています。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

建設業に関するマイナスイメージを払拭することが必要だと思います。私自身文系の大学に通っていたのですが、「建設業は理系出身の人だけしか関われない」というイメージを持っていたので、最初は就職が難しいのではないかと考えていました。こうしたイメージを持っている人は多いと思います。

そして、定着させるためには今までのやり方、大事なことを残しつつも、新しい担い手を受け入れる環境づくりが大切だと思います。若い人が不安を感じていることに気付くこと、女性が現状況で不便に感じていることに気付くことで、改善策が見つかり、よりよい環境がつけられると思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

“日々の業務のさまざまな変化に対応するのに苦労・工夫している”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 20年

・建設業に関わったきっかけ：

知人が今の会社に勤めていた。

・職種（できるだけ具体的に）：

事務職

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

長い間勤めているので、出来ることが多くなった。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

日々いろいろなことが変わっていくので、それに対応するのに苦労しています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

ただただ、忍耐。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

会社の環境、設備などの改善。

※ご協力まことにありがとうございました。

“土木の魅力や価値を発信する機会があれば積極的に関わりたい”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 20年

・建設業に関わったきっかけ：

大学で土木建設工学課を卒業したから

・職種（できるだけ具体的に）：

地方自治体、設計コンサルタント、NPO法人、公益財団法人 他

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

大きな仕事をたくさんの方とやり遂げたとき、誰からも愛着を持たれる成果が出たとき、が一番うれしく思います。とある地方自治体で、基本計画を策定する際に、行政側から住民の声を聴きとる姿勢が感じられ、住民側も信頼感を持って行政に意見を伝え、受注側の設計コンサルタントがきちんと意見をまとめたうえで設計に反映する…というプロセスが、どの現場でも起こればいいな、と心から思います。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

土木分野出身でありながら、現場に携わることが少なくなりました。それでも、土木の魅力や価値を発信する機会があれば積極的に関わっていきたいと思っています。土木に携わっているときは、周り中が関係者だったので伝えたいことが伝わりやすい環境にいたと思いますが、今は、土木のことを全く知らない方も多い中で、わかりやすい言葉を選んで話すことが多くなりました。特に子供たちには、模型や図などがあると伝わりやすいので、視覚的に土木を説明しやすいツールが必要だと感じます。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

たくさんの方の生活を陰で支えているという誇りが感じられるからです。現場そのものは大規模でも、完成した事業は地下や山の中など、見えなくなってしまうことが多い土木の仕事。その裏側で汗をかいたたくさんの方の苦労や努力を知っているから、土木の世界を好きでい続けられます。そういった裏側をたくさんの方に知っていただき、土木を身近に感じていただくことが、現場の方々の支えになるのではないかと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

若者には、土木の現場の楽しさと誇り高さを知ってほしい、女性には、様々な関わり方ができる分野だということを知ってほしい、と思います。それぞれ、届けたい人に届きやすい、わかりやすい伝え方をすることが大切だと感じます。

※ご協力まことにありがとうございました。

“話し方、話すタイミングなどコミュニケーションの工夫が大切”

➤ プロフィール

・性別： 女性

・建設業に関わった年数： 6年

・建設業に関わったきっかけ：

子供が小学校に入学し、経理担当の常務も高齢になった事もあり、常務が会社にいるうちに色々
と教えを乞い継承出来るものはして、発展させられるものは経験豊富な常務に相談しながら進める
ことが出来るいい機会に恵まれた為。

・職種（できるだけ具体的に）：

経理、安全管理者

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

40年近く現場に携わっている現場代理人の方達と同じ現場の映像を見て、見る角度や立場は違うけれども意見を交わせることはおもしろいです。こちらから提案、発信した事に対して反応、改善してくれる事により実際に現場で働く一員になった気がします。私が現場に足を運ぶ回数も多くなると思います。一方、将来の建設業のあり方を見据えて管理企画部において新しい取り組みを企画、提案して社員と話し合う事も楽しいです。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

やはりコミュニケーションの取り方は気を使います。話し方、話すタイミングは大事だと思います。現場の状況はモニターの映像から観察できますが、現場の空気感は把握出来ないのので立て込んでいると感じた時は時間をずらして連絡を取るようになっています（急を要するときは別ですが）。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

色々新しいことに取り組む機会を与えられたからだと思います。経理の仕事を一通り覚えたところに、管理企画部の立ち上げがあり、まだ形にならない事も沢山ありますが、徐々に進行している気がしています（感覚ですが）。

長く仕事を続けるには変化を楽しむ事だと思います（地元建設業は気持ちの面でも古い感覚に囚われているみたいですが）。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

女性の為の設備を整える（シャワールーム、トイレ）事も大事かもしれませんが、現役で働いている人の受け入れ態勢（特に感情面）が整わない事には難しいと思います。老若男女問わず、自分が存在する意義、必要か否かは一日の大部分を占める仕事においては重要です。特別扱いは必要ないですが、はじめから若いから経験がなくてダメとか女性だから戦力にならないというような気持ちではなく、自分

達が育てて一人前にしたいという意欲を持つことです（自分自身に言いきかせています）。

※ご協力まことにありがとうございました。

“安全があってこそ、安心して作業をすることができる解体業”

➤ プロフィール

- ・性別： 女性
- ・建設業に関わった年数： 1年
- ・建設業に関わったきっかけ：
友人の紹介

- ・職種（できるだけ具体的に）：
解体工(現在は事務員)

➤ 質問① 建設業に関わった喜びや、やりがいについて

私は1年前に友人の紹介で解体工事業の女性現場作業員として働くことになりました。最初のうちは、力もなく重い物も運べない、みんなの足を引っ張っているだけだと落ち込んでばかりいました。ですが、優しい先輩方のサポートのお陰で、少しずつ仕事を覚えられるようになりました。いくら大きな建物でも私たちが解体し、最後は更地になった土地を見るとなんとも言えない達成感がこみ上げてきます。そして、少しずつ仕事を覚えていく、その技術を発揮できる場所にこの仕事のやりがいを感じます。

また、解体工事は振動や騒音、ホコリなど工事現場のご近所さん方にご迷惑をおかけすることも多々あります。女性が率先してご近所さん方とコミュニケーションを図り、理解していただくことでスムーズに工事が行えるようになります。仲良くなって差し入れを頂いたりすることもあります（笑）。

私自身ができる仕事を増やしていくことが仕事の楽しみです。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

私が一番苦労していることは、トイレや更衣室についてです。現場には基本男性用トイレしかありません。現場によっては、トイレのドアが外されているところもあります。お手洗いのたびに「すみません。コンビニのお手洗いにいってもよろしいでしょうか？」と聞くと、「現場のトイレは汚いし嫌なのか？」と言われることもありました。確かに、男性の方からはただの贅沢だと思われるのは間違いありません。そういったことを現場の方々に理解していただくことが一番苦労しました。工夫している点はトイレの清掃です。私自身、トイレにドアがついていれば現場のトイレを使用します。汚いし使いたくないという抵抗はありません。私も、そして現場の皆さんが気持ちよく使用して頂くために毎日トイレの清掃を行います。少しでも皆さんが働きやすい環境が作れたらと考えています。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

この仕事を今まで続けて来られたのは、周りの方々のサポートのお陰です。周りの先輩方は、わからないところがあると、私が理解できるまで丁寧に教えてくださいます。技術職なので、何回も繰り返しやらなければ身に付きません。ミスをして怒られるときもありますが、それでも先輩方に、私のミスをカバーして頂き、何が原因でミスをしたのか、今後どうすればミスを防げるのか、を一緒に考えてくだ

さいます。そんな先輩方のお陰で続けられているのだなと思います。

やはり、この仕事を長く続けていくためには、しっかりと頭の中に安全対策を考えることが必要だと私は考えます。解体工事業は、建設業の中でもかなり危険が多いといわれているそうです。

この作業にはこんな危険が潜んでいる。安全に作業するためにはどのような工夫が必要かを常に考え、行動に移すことが必要だと考えます。安全があつてこそ、安心して作業をすることができると思います。

➤ **質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？**

やはり、女子専用トイレや更衣室といった女性が働きやすい環境づくりが必要だと思います。そして、育休・産休も取りやすい会社作りも必要です。建設業といえば男性のイメージが強いという中、現在では女性の進出も増加していると聞きます。会社全体で、女性の雇用について考え、サポートをしていくべきだと考えます。

また、近年では建設業の高齢化が進んでいます。若者の離職率も高いと聞きます。特に解体業では建築業と違い、大学や専門学校で学ぶことはできません。解体の手順書や図面もありません。つまり、次の世代へ技術を受け継いでいかなければなりません。社内でも定期的に新人研修会を設け、個人の意識やスキルアップのサポートを行い、また次の世代へと技術を受け継いでいけるようにしなければならないと私は考えます。

※ご協力まことにありがとうございました。

□建設未来京都フォーラム設立趣意書

人々の暮らしを守り、豊かにする輝かしい建設業を取り戻したい
—建設業の今を見つめ、未来を描こう

本来、建設業は現代文明の大きな成果であり、社会基盤として私たちを守る素晴らしい産業であります。今こそ、建設業に携わる人々が連携して自分たちの仕事に誇りを持って、建設業の課題を見つめ、素晴らしさ、やりがいなどの意義や展望を、自らの言葉で発信していくことが必要だと考えます。

また、次世代のために自分たちの手で建設業界の未来を担う人材を育てていくのだという強い気概が求められます。

建設業、建築業をはじめ関係者が小さな差異を克服し、建設業界を未来志向で捉え直し、一丸となって英知を結集する場として、「建設未来京都フォーラム」を設立します。

(2014年8月)

「建設未来京都フォーラム」設立発起人

代表 新井恭子（京都サンダー株式会社代表取締役）

建山和由（立命館大学理工学部環境システム工学科教授）

新井清一（京都精華大学デザイン学部建築学科教授）